

2012年度は心臓血管外科の佐々医師が常勤から週半日の出向となり、ほぼ一人体制と苦しい状況であった。担当した入院患者数は前年度の296名から207名と減少した。

当院の地域の高齢化率は35%程度であるが、当科で担当した入院例では、前年よりさらに高齢化しており、平均年齢81歳（中央値83歳）となった。65歳以上の高齢者は実に94%となり、ほとんどが高齢者であった。

入院の内訳は、心不全が最も多く66例であった。心不全例の年齢はさらに高く、平均84歳であった。死亡は6例のうち5例は85歳以上の超高齢であった。心不全の詳細を見ると、虚血性心疾患10例、心筋症10例、弁膜症10例となっており、心房細動の合併は23例34%みられた。

急性冠症候群や安定狭心症の多くは済生会熊本病院（以下熊本病院）へ紹介しているため少ないが、入院では急性心筋梗塞12例、狭心症、OMIは3例のみであった。不整脈7例、血管疾患17例、弁膜症は心不全での入院など15例、意識消失発作を含む血圧関連8例、などであった。肺塞栓症が3例あった。

循環器疾患以外では、肺炎などの呼吸器疾患13例、慢性腎臓病などの泌尿器系の疾患が16例、糖尿病などの代謝疾患9例、脱水やめまい、貧血などの疾患もカバーした。

一方、外来診療では毎月約900～1000人の患者の診療を行った。地域の医師の減少が進み、生活習慣病コントロールの患者が年々増加し、通院例の約1/4が糖尿病を合併している状況となった。

循環器関連の検査はほぼ例年並みであったが、心エコーおよび血管疾患のCT、MRIがやや増加となった。

	2011年度	2012年度
心エコー	1,770	1,889
負荷エコー	34	33
トレッドミル	69	70
ホルター	123	130
頸部血管エコー	265	218
下肢血管エコー	236	263
ABI	229	251
心臓CT	16	22
血管CT&, MRI	130	153

急性心筋梗塞は29例（CPA0A11例を除く）であり、うち19例を熊本病院に搬送して急性期治療を行った。急性大動脈解離は11例（CPA 3例）とやや多くなっていた。CPA症例では、大動脈瘤の破裂に伴うものも2例みられており、大動脈疾患に伴うCPAは年間で5例であり、内因性心臓死11例の半数になっている。

急性心筋梗塞（CPA、転送を含む）	40
急性大動脈解離（CPAを含む）	11
心不全	66
不整脈	7
狭心症、OMI	13
血管疾患	17
弁膜症	15

